

## 議長記者会見（第26回）会見録

日時：平成29年9月28日（木）

午後2時30分から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う米澤議長（右）と山口副議長（左）

### 1 今定例会を振り返って

9月7日からの開会でありました9月定例県議会も今日をもって、おかげさまで、報道の皆様方のご協力を賜りまして、無事終わることができました。感謝申し上げます。私と山口副議長、それぞれ就任して半年がたった第2回目の本会議であったわけですが、本当に皆さんありがとうございました。

今回の議会でございますけれども、知事の7選出馬表明、それから、突然の衆議院解散等々で、何かと話題に事欠かない議会であったわけですが、そういう中におきましても、まず、皆さんに言わなければいけないのは、9月3日に秋篠宮眞子内親王、ご婚約が内定したということでございます。一昨年ですか、眞子内親王には、こ

の金沢に來られまして、そういった意味ではご婚約の内定というのは、県民一同、本当にお喜びを申し上げているのではないかと、私どももそう感じているところでございます。

それから、8月のレスリング世界選手権大会では、昨年のリオデジャネイロでも金メダルを獲りました、川井梨紗子選手。今年も世界選手権で金メダルを獲ったということで、これも県民の一人として本当に大変喜ばしいことだと思っております。そういった中の議会でございました。

特に、今回は、北朝鮮の問題、大和堆の北朝鮮の問題等いろいろありましたけれど、そういった中で活発な議論がなされたと思えます。全国議長会の方でも、大和堆の問題、私、取り上げさせていただきました。全国議長会は、東シナ海のほうの尖閣諸島をメインに置いていたものですから、今、日本海のほうでもこんな大変な問題が起きていますと提案しましたら、全国議長会でも取り上げていただきましたし、知事も全国知事会、それから国会の先生方のご協力によりまして、巡視船を来年度、3隻配備することになりましたので、県内の漁業関係者の方々が一日も早く、安心して漁ができるように、国に強く働きかけてまいりたいと思えます。

そして、今議会での議論でございますけれど、今、政策調査会のほうで、条例案の制定に向けてやっています県産材の利用促進、議会の中でも質問等も出ておりましたけれども、今、条例の制定に向けて、鋭意努力している最中でございますので、推移を見守っていきたいと思っております。

それから、よく海外調査とか、委員会の視察等々の問題もよく議論されているわけでございますけれども、そういった中で、小松空港の問題もですね、海外調査の関係で、例えば上海、香港等にお伺いしまして、ようやく香港便のチャーターも実現するようになりまして、これもまた、来年度も継続してやるということでございますから、そういった意味では、有意義な調査結果が出てきているんじゃないかな、そういうふうに自負をしているところでございます。そういった関連の小松空港の問題等も議論されました。

そのほか、消防防災への更新と申しますか、こういうことも出てきましたし、北陸新幹線の金沢以西の延伸についても、とにかく準備を進めてくれと、それと同時に、景観と申しますか、車窓からの眺めというものの確保ということもいろいろ出ておりました。そういったことでは、大変素晴らしい議論が展開されたんじゃないかと思っております。

それと、今年は、ゲリラ豪雨と申しますか、集中豪雨が各地で発生しました。そういった意味の災害対策の問題やら東京国立近代美術工芸館の問題、それから、1300年を迎えた白山の問題、それから農産物のブランド化等々多岐にわたった議論がなされまして、それぞれが県政発展の礎となる質問であったかなというふうに痛感しております。

先の本会議でも採決されましたけれども、先ほど申し上げました日本海の大和堆にお

ける北朝鮮の問題についても意見書として、まとめることができましたし、それから、議会の広聴、広報でございますけれども、8月にふれあい親子県議会、こういうのも開催しまして、大変多くの子供さんたちの参加がございました。応募もたくさんあったわけでございますけれど、人数の関係で今年は161名という多くの皆さん方に参加をしていただきまして、いわゆる県議会というものを子供たちに理解していただけたんじゃないかなと思っているところでございます。

それから、議会改革推進会議等も、今、活発に議論されておりました、私6月の時に冒頭にご挨拶したときに、あの当時、早稲田大学のほうの調査結果が出ておりました、石川県の議会が、遅れているんじゃないかという指摘も受けましたけれど、ご承知のとおり、早稲田のアンケートについては、ちょっと事務局のほうの質問の趣旨の読み違い等々で、回答が公開されていないとか、そういうことの結果があったわけでございますけれど、早稲田大学の研究室ともいろいろ話をしましてですね、それであれば、間違いないですねというところを得たわけでございます。きっと、来年の早稲田大学の報告によりますと、例えば全国最下位だった、47位という項目もありましたけれども、そこら辺は、変更されるんじゃないかと思っております。

それから、定数・選挙区検討懇談会も、今、まさに議論をしている最中でございます、選挙区については、先日、合意がなされたところであります、これから引き続き定数について、また、議論をしていくということで、12月を目途に私のほうに報告があるやに伺っておるところでございます。

そして、先に本会議で議決いただきましたけど、10月5日からブラジル石川県人会80周年ということで、私と商工観光公安委員会委員長の平蔵先生で、ブラジルのほうにお伺いして、県人会との交流を深めてまいりたいと思っております。

それから、我々の同士でありました西田議員でございますけれど、今回、衆議院議員選挙に立候補するという、大変な決断をしていただきまして、先ほど議員辞職をされたわけでございます。本当に、長い間、能登地区からの選出の議員として、本当に能登のことを毎回毎回取り上げた質問をされておりました。そういった意味では、大変、同士を送り出すというのは、こんな寂しいものかなという感じ、痛感したわけでございますけれども、西田先生におかれては、これから次のステップに向けてぜひ頑張ってほしいなど、そういうふうなエールを送りたいと思っております。大まかに雑ばくなことを報告させていただきましたけれども、以上、そういうことがいろいろあったこの9月7日からの22日間であったんじゃないかなと思っております。また、記者の皆さん方、本当に22日間でございますけれども、県議会にご協力賜りましたことを冒頭にも申し上げましたけれど改めて申し上げたいと思います。何か質問等ございましたら、どうぞお願いをいたします。

## 2 質疑応答

記者

議会の改革についてなんですけれども、今の時点でここが足りていないなとかいうところがあると考えているのか。それとも、現状でいいのかと。

米澤議長

これはですね、これで満足ということは、まずありえないと思います。例えば、政務活動費の領収書のネット公開等々の問題もありますから、そこら辺どこまでできるのか、他県の事例も参考にしながら、これからも鋭意進めていきたいなと思っております。ただ、今の時点ではですね、だいたい各県の状況を見た中では、ある程度進んでいるグループではないかなということを我々は思っているところでございます。あと、先ほど申し上げましたけど、昨年の早稲田大学の先生方の研究のあの問題について、先ほど申し上げたとおり、いろんな解釈の違い等があったようでございますから、そこら辺はきちっと説明もしましたし、そのあと、多分日経さんかなにかの順位ではそんなに下のほうじゃなかった記憶をしておりますけれども、そういった意味では、真ん中より上ぐらいの今のところレベルになるんじゃないかな、だからこれをまた一步でも、いろんな情報公開も含めて、もっともっと進めていきたいというふうに思っております。

記者

選挙区の合区の話なんですけれども、今回、珠洲市、鳳珠郡で決まりましたけれど、人口でやむを得ないところはあると思うんですけれども、地域の声を届けるという意味でこれから議会で求められるものというなにか、どのような認識をもっておられるか。

米澤議長

そうですね。まだ、最終的な報告というか、こういう形でという報告までいただいておりますので、今それについて、コメントを私述べるのは、時期的にまだ早いかなと思っておりますけれど、とにかく、もう来年、再来年までにそういう方向で決まれば、きちっとした準備を進めていきたいし、また、それぞれの担当の地区の地域の方々には、わかりやすく説明ができるように我々も頑張っていきたいと思っております。

この間、合区については、一応ああいうような結論が出たわけでございますけれど、まだ、定数の問題等も残っていますから、議論の推移を見守りたいと思っております。

記者

同じ質問を副議長にも。

山口副議長

人口減少でやむを得ないという部分もありますけれども、こういう民力のないところに、より政治の力が必要だという地域住民の考え方がね、より強くなるんじゃないかという、だんだん、県議の人の重みというか重圧感というか増えてくるんじゃないかなと思いますし、また、珠洲市と能登町も特に穴水町のほうは、そんなに今まで交流というものがないもんですから、選挙の合区がなされたから、じゃあ、急にどうなるという、そのへんもまだ、見えておりませんし、とにかく、議員さん同士の交流とか、そういうところから、しっかり足固めをしていただいて、お互いに能登は一つという環境を、より力強くしていくような努力が、今まで以上に必要になってくるんじゃないかなというふうには思っております。

記者

議員というのは、市会議員、町会議員。

山口副議長

そうです。市会議員とか、町会議員という方が、その地域地域のリーダーですので。

記者

わかりました。

山口副議長

もう一点、石川県漁業協同組合小木支所の支所運営委員長さん、山下久弥さんなんですけど、私も個人的にも存じ上げているんですが、あの方の話を聞くと、私らが持っている感覚とまた違うんですね。もっともっと、厳しい考え方で、もう来年は、廃業しなならんんじゃないかな。北朝鮮問題で。そういう意味で、大和堆の問題については、どうも日本全体の問題にまで、国民認識ないんじゃないかなという気がするんですよ。今のところ石川県は、一生懸命知事さん先頭に頑張っておいでるけど、なんとか、この運動を全国レベルまで押し上げてもっともっと、大和堆、このイカの問題については、マスコミの皆さんを始めもっともっと関心を持っていただきたいなというふうに思います。どちらも山にいて、安いイカを食べたいし、このままでは、高いイカ、ブリ以上になってくるんじゃないか心配しているもんですから、日本国民の食料確保の意味においても、国民的な運動にしていきたい、なればいいなというふうに思っています。